

# 「ウェブで情報発信」の意義

カレントアウェアネス・ポータル<sup>1</sup>の舞台裏から

国立国会図書館 関西館  
図書館協力課 調査情報係

村上 浩介

*[mur-k@ndl.go.jp](mailto:mur-k@ndl.go.jp)*



## 職務 その1

- 図書館及び図書館情報学に関する  
情報の収集並びに調査及び研究  
に関すること。



## 職務 その2

- 前号の事務の成果の  
編集及び提供に関すること。





## 成果の公表

- これらの業務の成果を公表する  
媒体の1つが  
カレントアウェアネス・ポータル





## 本日お話しすること

- カレントアウェアネス・ポータルを  
運営する中で、**学んだ教訓**



# 学んだ教訓

- 組織のミッション・ビジョンへの貢献
- 「伝統」の継承
- 適応進化
- 強みを活かす優先順位づけ





# 学んだ教訓 1

- 組織のミッション・ビジョンへの貢献



# 組織のミッション

- 国立国会図書館
  - = (唯一の) 納本図書館
  - = 国会の図書館
  - = 図書館の図書館
  - ⋮







## 国立国会図書館長・長尾真

- 知識はわれらを豊かにする

→ 国立国会図書館60周年を迎えるに

当たってのビジョン(長尾ビジョン)

[http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/vision\\_60th.html](http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/vision_60th.html)



## 長尾ビジョン 6

- 公共図書館をはじめとする国内の各種図書館とより密接な連携・協力を進めます。



## 長尾ビジョン 7

- 海外の図書館との密接な連携を行い、情報の共有・交換に努めます。



# 貢献の可能性

- 調査情報系の活動が、  
(国内外の)図書館の発展の礎となる。



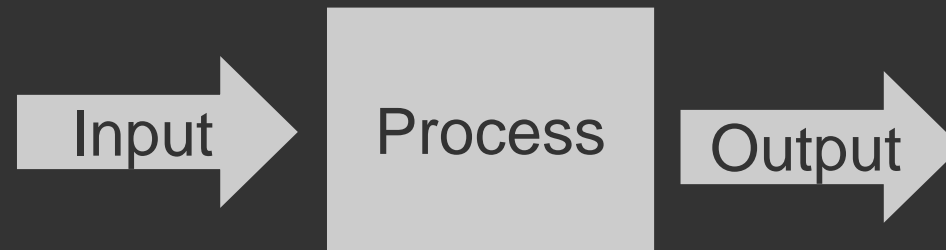
# 調査情報系の活動

- 情報を収集し、
- 調査、研究、編集し、
- 提供する



# 情報工学的に言えば

- Input
- Process
- Output





## 一般的な目標

- より早く  
より多く  
より正確に  
情報を収集・加工・提供する





# 調査情報係の(最終)目標

- 情報の提供が、  
図書館の発展の礎となる  
II  
アウトカム (Outcome)





## アウトカムの事例

- 山中湖創造情報館
- ブログ「かたつむりは電子図書館の夢を見るか」
- 調査情報係自身



## 学んだ教訓 2

- 「伝統」の継承



## 伝統

- 国立国会図書館は約30年間、  
図書館～情報の発信を行ってきた。





# カレントアウェアネス

- 雑誌（かつては月刊、現在は季刊）
- 1979年創刊
- レビュー、解説を中心とした記事





# カレントアウェアネスとは？

- 図書館情報学用語

「図書館その他の情報機関が利用者に対して**最新情報を定期的に提供するサービス**」

(図書館情報学用語辞典 第3版. 丸善, 2007)





# カレントアウェアネスとは？

- これを、固有名詞として採用

「図書館及び図書館情報学に関する

最新情報を定期的に提供する

雑誌」





## カレントアウェアネス-E

- メールマガジン(原則、月2回刊)
- 2002年創刊
- 短い解説をつけてニュースを紹介





# カレントアウェアネス-R

- ブログ(毎営業日、随時更新)
- 最新ニュースの簡潔な紹介







# カレントアウェアネス・ポータル

- カレントアウェアネス-R
- カレントアウェアネス、カレントアウェアネス-Eのバックナンバー
- 調査研究報告書のウェブ版





# カレントアウェアネス・ポータル

- 調査情報系の業務の成果を統合的に提供するウェブサイト
- 「カレントアウェアネス」シリーズのポータルサイト





## CA-Pを必要とした理由

1. 流通する情報量の急増
2. 効率的な情報提供媒体の登場
3. 情報格差の拡大





## 流通する情報量の急増

- ウェブで発信される情報量が急増  
→ 効率的な収集が必要 (RSS、SBM)
- 提供したい情報量も急増  
→ 効率的な提供が必要





# 効率的な情報提供媒体の登場

- ブログ

- CMS

(コンテンツ・マネジメント・システム)

- オープンソース



# 情報格差の拡大

- 国内外の格差拡大
- 図書館界と他業界の格差拡大
- 読む人と読まない人の格差拡大



# 説明戦略

- 既存の業務のプラス面を評価
- 既存の業務の改善点を提示
- 既存の業務との継続性を担保





## 既存の業務のプラス面を評価

- 情報の鮮度の向上
- 情報量の増加
- 内容の充実、質の向上
- アクセシビリティの向上







## 既存の業務の改善点を提示

- 既存の業務でも情報は集めていた
- だが、大量に**ボツ**になっている
- これを、システムの効率化により、  
提供できるようにする





## 既存の業務との継続性を担保

- 既存の提供媒体を維持
- 名称「カレントアウェアネス」の継承





# 既存の提供媒体の維持

- 雑誌
- メールマガジン
- ブログ



## 雑誌

- カレントアウェアネスの原点
- 長い文章に向いている
- 図書館に所蔵される
- **職員の研修**代わり



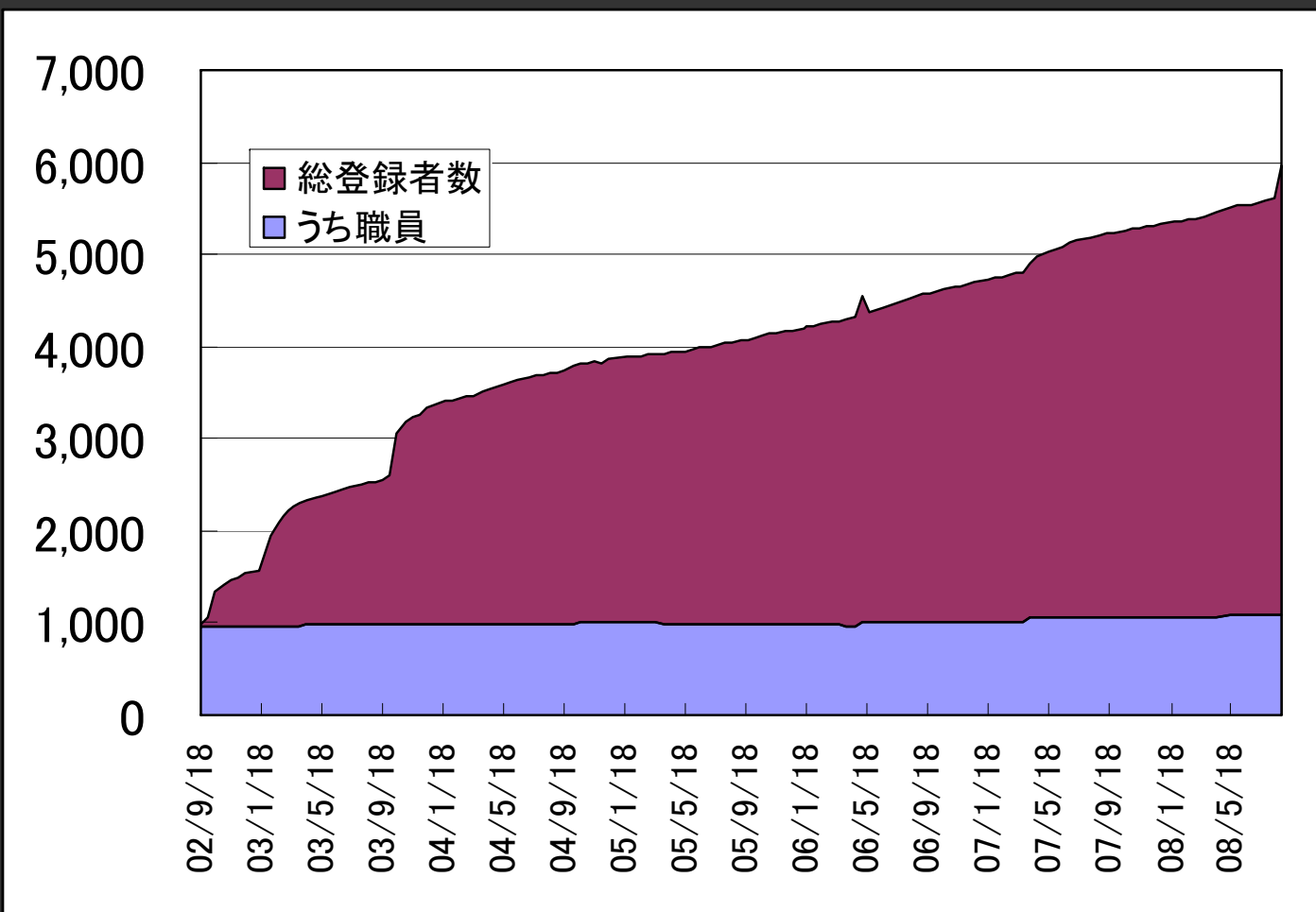
# メールマガジン

- 読者が多い
- 読みやすい長さ
- 適度な詳しさ
- **スタッフの成長**に貢献





# 購読者数(2008-11-11:5,726)



# 学んだ教訓 3

- 適応進化



## 環境の把握

- ウェブで人気のサイト、ツール
- 同業他社の先行事例
- 同一母体組織の先行事例







# 情報環境のアーキテクチャ

- 濱野智史『アーキテクチャの生態系：  
情報環境はいかに設計されてきたか』  
NTT出版、2008





# ブログ・CMSのアーキテクチャ

- **検索エンジン**に親和的

→検索エンジンから漏れなく、迅速に  
検索される





## ブログ・CMSのアーキテクチャ

- **リンク**による参照可能性が高い

→トラックバック、ソーシャルブックマークなどで参照されやすい

→検索エンジンの結果が上に



## ウェブの特徴

- ブラウザさえあれば、どこからでも、誰でも見られる

→ 雑誌、メールマガジンよりも、多くの読者に届けられる



## ウェブの特徴

- **トランザクションコスト**が低い

→安価に、迅速に、情報が提供できる

再利用されやすい





# オープンソースというトレンド

- 吉田智子『オープンソースの逆襲』  
出版文化社、2007





# オープンソースのメリット

- 無料
- カスタマイズが容易
- 「車輪の再発明」が不要
- 企業戦略に依存しない



# 政府とオープンソース

- 2002年から、政府（経済産業省が主体）もオープンソースを推進している





# 制約

- 開発予算ゼロ
- 人員3名
- 納期9か月

→ **オープンソース**の利用





# オープンソースの開発の特徴

- エリック・レイモンド『伽藍とバザール』  
山形浩生訳、1999

<http://cruel.org/freeware/cathedral.html>





## オープンソースの開発の特徴

- はやめのリリース、ひんばんなリリース。そしてユーザの話をきく
- 「目玉の数さえ十分あれば、どんなバグも深刻ではない」



## CA-Pでは...

- プロトタイプを構築して、デモを見せて、説明する
- 完成していなくても、提供する
- 反応を見て、改善する



## 反応を見るために...

- アクセス数を見る
- 引用回数・され方を見る
- 露出度を高める、顔を見せる
- オフラインでご意見をうかがう



## ウェブでの引用のされ方

- 1つの指標として、ソーシャルブックマークをチェックしている
- CA-Pコンテンツを媒介にした、コミュニケーションの可能性



## 学んだ教訓 4

- 強みを活かす優先順位づけ



# 優先順位付け

- コンテンツ
- マネジメント
- システム





# 優先順位付け

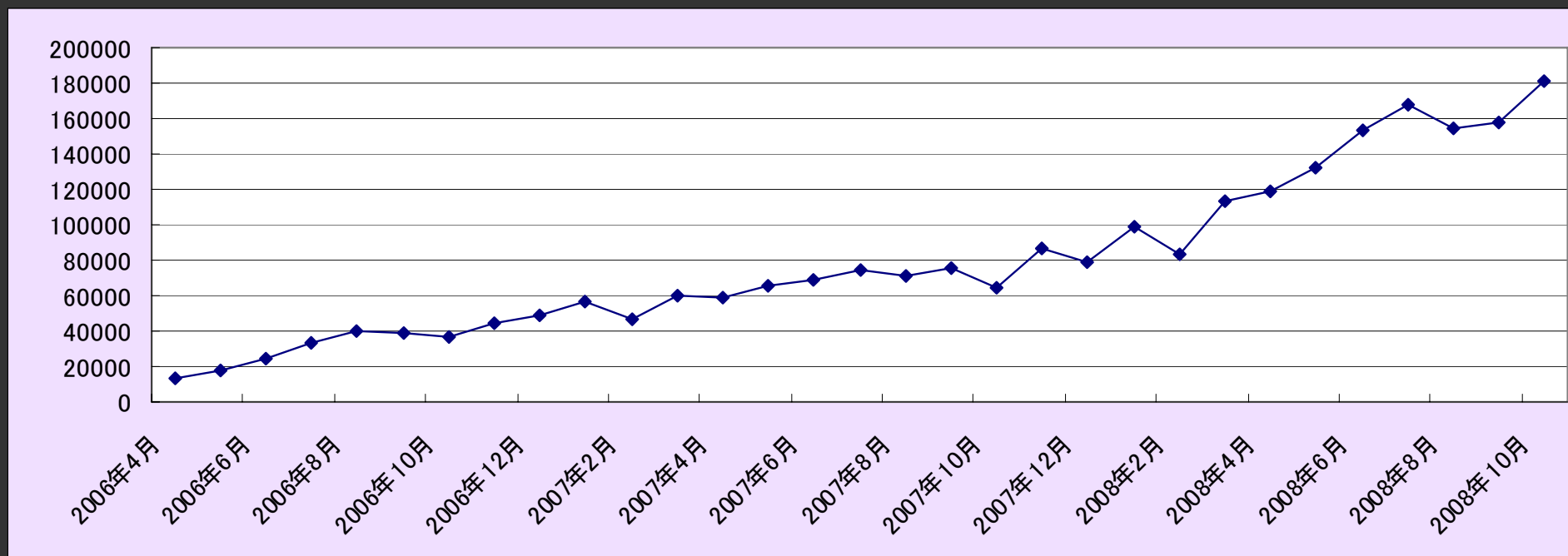
- 正確だ
- **早い**
- **毎日少しでも更新**
- まとめて追加
- 暗い
- **明るい**





# CA-P記事アクセス数

2008年10月 月間20万ページビュー



## 意義？

- より多くの人に情報を提供
- 人を育てる
- コミュニケーションの活性化
- 図書館の発展への貢献



## おわりに...

- 「カレントアウェアネス」に留まらない、  
図書館情報ポータルに向けて
- 持続可能な発展

